

平成30年度授業改善推進プラン

清瀬市立清瀬中学校第1学年

	学力調査から見えた課題（調査のない教科は授業における課題）	授業改善のための具体策	成果と課題（年度末）
国語	全体的な値としては全国の平均値を上回る結果となったが、書く能力に課題が見られた。解答形式についても選択、短答に比べて記述の正答率は低い。書くことについて苦手意識をもつ生徒が多いことは授業の様子からも窺える。文法上の主語と述語を適切に対応させて書いたり、一文を短くして分かりやすく書いたりする基礎的な力が不足しているため、そこを補う必要がある。また、語彙力の不足が目立つ。	150字から200字程度の文章作成に取り組み、書く作業に慣れさせる。文章作成の過程で語彙力の向上を含める。本人にフィードバックすることで生徒が自分の課題や成長を客観的に把握できるようにする。また読解の指導と関連づけて、読み取った内容を自分の言葉で再構成する活動を授業内で取り入れ、読む力とともに書く力の向上に努める。	
数学	全体的な値としては全国の平均値を上回る結果となった。その中でも観点では数学的な見方や考え方、領域では小数・分数の計算、立体図形が平均値に近い値である。小数や百分率は苦手意識をもつ生徒が多いことは授業からも感じ取れる。また応用問題では文章の読解力がなく、解けない生徒が多い。	小数・分数の計算の復習、四則計算での小数・分数の計算練習を行い、小数・分数への苦手意識をなくしていく。また文章問題に慣れるために多くの文章問題に触れる機会を作り、読解力を高めていく。	
社会	・授業中に積極的に発言する生徒が多いが、集中力が続かない場面も多く見られる。 ・定期考査の結果を見ると、基本的な知識が身に付いていないことが分析できる。前の授業内容の復習が必要である。	・授業開始時に本時のねらいを提示し、今なにを学んでいるのかという意識をもって授業に参加させる。 ・生徒の興味を引くような教材を提示する。 ・毎回の授業の冒頭で、小テストを行い、前時の授業の復習をし、基礎的な知識の習得を目指す。	
理科	・授業に前向きに取り組む生徒が多い。 ・実験では説明を集中して聞けていないので、間違った操作をすることがある。 ・漢字などがわからないのでノートを書くのに時間がかかる生徒がいる。	・事例を多く提示し、興味関心が今以上にもてるようにする。 ・実験操作について今以上にわかりやすく説明できるようにする。 ・プリントの工夫をし、今以上に書き込みしやすいうようにする。	
音楽	・前向きに取り組もうとする生徒が多い。合唱への意欲も高い生徒が多い。器楽は個人差が大きい。原因の一つは階名で楽譜を読む能力と音符の長さの理解の差であると考えられる。技能が追い付かない生徒へのフォローの工夫が必要である。	①授業開始時に、本時の内容、目標を板書し、全体で確認してから始める。 ②スモールステップ ③グルーブワーク、パート練習など相互協力を取り入れる。 ④パートリーダーを中心とした練習。 ⑤様々な楽器を体験させる。	
美術	・落ち着いた活動している。 ・課題に対して意欲的に取り組める生徒が多いが、作品の主題を決めるなどの思考力には個人差がある。	・生徒の表現を共有し合う活動をこまめに取り入れ、他者の活動から刺激を受けられる授業の流れをつくる。 ・個々の状況を把握し、具体的かつ深く主題等を決められるよう個別指導を行う。	
保健 体育	・始めのうちは、授業の流れすらわからず動きも悪い中授業が進んでいた。個々の理解力にも差があり、一斉に授業を行った際、できるできないがはっきりしていた。 ・運動能力の差が大きく、TTで行っていることで個別対応ができていないが、一部の生徒に指導が偏ることもあった。 ・授業で行う内容を一つ一つ丁寧に言いながら、進める必要がある。	・毎時間の授業内容を充分理解させ、各自が目標を自分に合ったものとして設定でき進められるようにする。そのために、授業前の説明で把握しやすく説明し学習カードを使用しながら具体的にに取り組めるようにしていく。	
技術 ・ 家庭	・意欲的で努力しようとする生徒が多い。 ・試行錯誤しながら工夫しようとする創意ある生徒も例年より多い。 ・工具をより効率的に使う方法などがまだ未熟で、使い方に慣れていない。	・実際に工具を使っている様子を模範で見せた上で、どのように使えば効率的にかつ正確に作業しやすいかを理解させる。	
外国語 (英語)	・授業へ真面目に取り組んでいる。意欲的に学習する生徒が多く、提出物も概ね良好である。 ・発音やコミュニケーションなどへは積極的に声を出すのが、英語を書くことや表現活動へは消極的な生徒もいる。 ・家庭での復習や練習が不足しているため、学習内容が定着していない生徒もいる。	・文法導入に際し、コミュニケーション活動を通して発話することで、慣れるようにする。 ・帯活動でパターンプラクティスのドリルワークを行い、英文を組み立てる練習を行う。 ・音読指導を丁寧に言い、読める＝書けるを目指す。 ・毎回の授業で簡単な課題を出し、家庭学習へ向かえるようにする。	

平成30年度授業改善推進プラン

清瀬市立清瀬中学校第2学年

	学力調査から見えた課題（調査のない教科は授業における課題）	授業改善のための具体策	成果と課題（年度末）
国語	都の学力調査の結果より、「読み解く力」や「書く力」については全体的に高いものの、「言語事項」「話す・聞く」の観点で課題が見られた。	①定期的な漢字の小テストの実施。 ②言語についての知識をつけられるようなプリントなどを作成し、活用する。 ③「話す・聞く」能力向上のため、討論などを客観的に評価しながら見る（聞く）機会を設ける。	
数学	都の学力テストの結果より、「回転体についての理解や円柱の表面積の求め方」、「文章を読み取り、情報を取り出すこと」、「図や文章を式に表現すること」、「割合の考え方をを用いて立式すること」が苦手な生徒が多かった。	①丁寧な授業、分かりやすい授業を行うことを心がけ、さらに授業の中で、振り返りの時間を設けて復習させるなどの工夫を行う。 ②得た知識を用いて、生徒自らが数学的に説明する機会を増やし、数学的な見方や考え方を育成する。	
社会	都の学力テストの結果を見ると比較的、資料を読み取る力は備わっているものの活用する技能に大きな課題が見られた。提示された資料を生かし、それをどのようにして問題解決へつなげていけばいいのか苦手としている生徒が多い。	①授業内で資料を読み取る指導の場面を位置づける。読み取り指導の場面を意図的に設ける。 ②読み取ること、解決することを区別すること。 それぞれの資料からどのような情報を読み取るのか、そして読み取った情報の意味や意義を、どう解釈するのかの区別を明確にする。	
理科	都の学力調査の結果は、全体としては都の平均を0.3ポイントほど上回り、興味・関心、技能の問題は、都の平均を5～6ポイント上回っていた。しかし、知識・理解や思考・判断に関する問題では、都の平均を1～2ポイント程度低い結果となった。また、読み取る力が都の平均より5ポイントほど低い値となった。	①高い興味・関心、技能のポイントを継続するために、興味関心を引く実験を工夫して行うことを継続する。 ②既習事項を定着させるための問題演習の時間を確保し、教え合いや習熟の遅い生徒の支援などを行う。	
音楽	・前向きに取り組もうとする生徒とそうでない生徒の差がある。合唱への意欲は高い生徒が多い。器楽は個人差が大きい。鑑賞への取り組みも概ね積極的にできる。	①授業開始時に、本時の内容、目標を板書し、全体で確認してから始める。 ②スモールステップ ③グループワーク、パート練習など相互協力を取り入れる。 ④パートリーダーを中心とした練習。⑤様々な楽器を体験させる。	
美術	・活発に活動に取り組むことができる生徒が多い。 ・個々に力を発揮することができるが、他者から真摯に学ぶ美術活動に慣れていない感じがある。	・グループワークや自己や他者の表現について語ったり鑑賞したりする活動をこまめに取り入れる。 ・美術の本質（気持ちを込めることの大切さ、技術至上主義にならないことなど）を指導していく。	
保健体育	・授業規律は問題なく、授業内容への取り組む姿勢も意欲的で毎時間活発に行われている。 ・授業への関心意欲は高いが、思考判断の評価は低い。 ・毎時間の授業で、各自がどんな目標で具体的にどう取り組むか明確にして授業へ臨めるようにしたい。 ・苦手意識が高い生徒に具体的にどう取り組み、成果を持たせ次の取り組みに自信を持たせていけるかを考えていきたい。	・継続して、授業規律を守りながら毎時間の授業を進められるように指導をしていく。 ・学習カードで簡単な内容で終わらせず、具体的に自己評価し授業の振り返りができたうえで内容を精選させていく。 ・苦手意識の高い生徒には、TT指導を活かしながら個々の対応をしていく。ただ、偏りがないようにする。	
技術・家庭	・授業へ熱心に取り組む生徒が多く、特に作業へ力を入れる生徒が例年より多い。 ・定期テストでの知識・理解の問題の正答率が悪く、工具名や用語を分からないまま作業している生徒が多いことが原因と考えられる。 ・進度の差が激しい。	・授業の導入で、「これは何？」というようなクイズ形式で工具名や用語を全員で共有する時間を設ける。 ・定期テストの予想問題を取り組ませ、復習しやすい勉強方法を実践させる。 ・補習を実施する。	
外国語（英語）	・英語に興味をもち、意欲的に授業に取り組む生徒が多いが、家庭学習の取り組みに大きな差がみられる。 ・1年次からの毎時の取り組みにより、語彙力はあるが、それらを活用し表現することに課題がある。	①毎時「書く」「話す」場面を作り、突発的な表現ができるように訓練する。 ②ペアやグループ活動で新出文法や基本表現の練習を繰り返しい、自然に口から発せるようにする。 ③宿題や課題のチェックをこまめに行う。	

平成30年度授業改善推進プラン

清瀬市立清瀬中学校第 3 学年

	学力調査から見えた課題（調査のない教科は授業における課題）	授業改善のための具体策	成果と課題（年度末）
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聞きとる能力が低い数値で、読む能力もこれに比例して低い数値を示している。自らの意見をまとめる点において語彙力の不足が目立つ。漢字や語句の意味は理解できても、表現する時点で言葉の選択、識別が困難になると思われる。</li> <li>・文章から事実と意見を識別し、自らの考えや意見を記述する能力が不足している。文学的文章での登場人物の心情変化などの読み取りは充分に対応する能力があるが、説明的文章の要旨を捉える力はない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・語彙を増やすために学力向上テストの内容に、語句の意味や類義語、対義語など言語知識を問う設問を多く入れて実施する。</li> <li>・文章の読解能力を維持発展させるため、板書以外に口述筆記の授業展開を意図的に増加する。また、説明的文章の読解の際、段落要旨を短作文で記述する展開を多用する。</li> <li>・国語に関する興味関心を高める教材や読書意欲を喚起する授業の工夫を行う。</li> </ul>	
数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎計算力は低くないが、関数と図形の正答率が低かった。知識理解の定着が不十分なことから、問題で問われている内容が読み取れていないと思われる。</li> <li>・資料を比べ、自分の考えを記述する問題の正答率も低かった。計算や資料を読み取る力はあるが、性質や原理を理解していないことから、文章化できていないものと感じる。語彙力も低く、言葉の言い回しも捉えきれないと思われる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の冒頭で数学の用語の意味や知識の確認を継続的に取り組む。また、入試問題にも触れさせ、問題文を読み取る演習に多く時間をかけ、読解力を向上させたいと考える。</li> </ul>	
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査における思考・判断・表現の問題の正答率が低い。課題に対して、自分なりの考えを記述することが苦手な生徒が多い。</li> <li>・復習確認テストでは、基礎的な問題の正答率が全体的に低くなっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業では習得した知識を活用して、思考させる問題解決型の学習を増やしていく。またグループ学習や討論学習を実施し、他の人の考えを踏まえて、自分の考えを深めさせるような活動をしていく。</li> <li>・1、2年の内容が定着していないことが大きな課題である。これまでの復習を、単元の終わりに計画的に取り入れていく。</li> </ul>	
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・記述形式問題の正答率が、都の平均より6.6ポイントも低い。これは、実験の結果などを自分の言葉でまとめる能力が不足しているためであると考えられる。</li> <li>・理科の4分野のうち、生物分野は都の平均と同様のポイントとなっているが、化学分野の正答率のみがかなり低くなっている。</li> <li>・観点別の集計では、関心・意欲・態度の正答率がかなり低くなっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験の結果や考察などを書く際に、机間指導を行い、個別にアドバイスをし、自信をもって記述できるようアドバイスをを行う。</li> <li>・化学式や化学反応式などの復習をくり返し行い、物質を記号を用いて表すことに慣れさせる。また、イオン式や電離式の書き方の練習の際にも、化学式の復習を行う。</li> <li>・教科書の実験に、生徒の興味を引くような内容を随時追加し、関心・意欲を高める。</li> </ul>	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前向きに取り組もうとする生徒とそうでない生徒の差がある。合唱への意欲は高い生徒が多いが男女の人数比が良くないので表現の更なる工夫が必要だと考える。器楽は個人差が大きい。鑑賞への取り組みも概ね積極的にできる。鑑賞で感じたこと、考えたことに対する、アウトプット表現が苦手な生徒がいる。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①授業開始時に、本時の内容、目標を板書し、全体で確認してから始める。</li> <li>②スモールステップ</li> <li>③グループワーク、パート練習など相互協力を取り入れる。</li> <li>④パートリーダーを中心とした練習。</li> <li>⑤鑑賞文の書き方を国語科、美術科と横断的に情報交換しながら行う。</li> </ol>	
美術	<ul style="list-style-type: none"> <li>・落ち着いて活動している。</li> <li>・自ら主題について深く考え、追求することに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の状況を把握し、具体的なかつ深く主題等を決められるよう個別指導を行う。</li> <li>・美術的なものが生まれる過程において、自己をみつめることの大切さを様々な作例の鑑賞等を通し気づかせる。</li> </ul>	
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年間のまとめとして、各単元ごとに目標を明確にさせ取り組ませる。</li> <li>・授業規律は良いが、取り組む内容によって目的意識が低く活動に差が出ることもある。</li> <li>・評価において、「思考・判断」の評価に差がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元ごとにねらいを伝え、各自の目標を決めさせる機会を設けていく。（学習カード記入、話し合い等）</li> <li>・3年は進路も意識するため、評価方法を伝え意識を変えていくことを促していく。</li> <li>・内容を十分に理解させようとして、具体的にどう活動して課題解決に繋げていくか伝えていく。</li> <li>・教員間の授業に対してのねらいや具体的な動きの確認を密にしていく。</li> </ul>	
技術・家庭	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業態度はおおむね良好であり、創意・工夫を意識した作品づくりを目指して取り組んでいる。</li> <li>・知識・理解に欠ける生徒の割合が多く、日頃の生活と学習内容が結び付いていないことが原因かと思われる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「なぜ？」を意識した学びを実践できるよう、身の回りの物に関する「発想力向上クイズ」などを授業の導入で取り入れ、生徒の意欲向上、さらには知識を増やしていく工夫を行う。</li> </ul>	
外国語（英語）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業へ真面目に取り組む生徒が多い。提出物も概ね良好である。普段の家庭学習に課題がある。</li> <li>・1、2年の基礎的な内容（単語や文法）が、定着できていない生徒がいる。</li> <li>・英語を話したり、書いたりすることに苦手意識をもつ生徒が多く見られる。</li> <li>・長文を読むことに抵抗感や苦手意識をもつ生徒が多い。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①目標やねらいを明確にし、各自が「何をすべきか」を考えて学習へ取り組むよう支援する。できたことへ適切に評価し、達成感を味わえるよう工夫する。</li> <li>②1、2年の復習を週1で授業に取り入れる。毎時帯活動に語彙練習と4時に1回の単語テストを実施し、単語の反復練習を習慣づける。</li> <li>③「書く」「話す」活動を行うために、ALTの活用や毎時間の自己表現活動を工夫し、取り組ませる。</li> <li>④様々な読み物に触れさせ、「読む」ことに慣れさせる。</li> </ol>	